

ロシア語入門コース

文 法 編

教科書刊行会

『ロシア語入門コース』は、主として大学などで外国語を専攻する学習者を念頭に置いて編集されている。教員の指導のもとにロシア語の習得と上達をめざして勉強する学生を対象に作成した。これまで札幌大学には二十年に亘るロシア語のティームティーチング、ロシア人専任教員との授業運営、定期的な事務連絡会議の実績がある。そこで得られた経験や成果などを反映させてこの教科書を編集したつもりである。

また教科書の構成を3分冊にするという考え方は、前身とも言うべき『基礎ロシア語コース』（札幌大学・北海道大学教科書編集委員会著1992年、ナウカ）に求めることができる。同書のはしがきには次のように謳われている。

この教科書では全体を「文法編」「練習問題編」「会話編」の3つに分け、完全な分冊としている。授業の形態、目的、時間数に合わせて、この3つを自由に組み合わせることで、いかなる大学の教材としても使用できるようにというのが、その狙いであった。結果として、「文法編」は練習問題から解放されて、文法書としての性格をより鮮明に持つことができたし、逆に、練習問題は文法の添え物的位置を脱却して、独立の一編となることができた。

『文法編』の第1課から第11課までは名詞や代名詞の単数変化、動詞の現在と過去形などを中心に扱っている。これらの項目はどの入門書にも共通するテーマであろう。第12課から第19課までは形容詞の用法、動詞のアスペクトや命令形などを扱い、語尾変化とともに語法解説が増えている。第20課以降では関係詞や形動詞など、構文や用法の説明が多くなり、教科書の前半をきちんと習得していることが暗黙の前提となっている。

各分冊の目次内容はロシア語学習の第一段階で必要な基本仕様を充足していると、編集委員会では判断している。3冊の教科書を適宜組み合わせながら使うことによって学習者のロシア語上達にささやかなりとも役立つことを願っている。

2002年4月

編 者

第1課	文字と発音	
§001	アルファベット	1
§002	母音	3
§003	子音	3
§004	軟音記号と硬音記号	4
§005	単語とアクセント	5
第2課	簡単な文	
§006	簡単な平叙文	7
§007	疑問文と否定文	7
§008	疑問詞を用いた疑問文	7
§009	人称代名詞	8
§010	接続詞 и, а, но	8
§011	数詞(1) 1~10	9
第3課	名詞の性・数・格	
§012	名詞の性	10
§013	名詞の数	10
§014	名詞と3人称代名詞の関係	11
§015	名詞の格	12
第4課	所有代名詞・指示代名詞・形容詞	
§016	所有代名詞 мой(主格)など	13
§017	疑問代名詞 чей?(主格)	13
§018	指示代名詞 этот, тот(主格)	14
§019	形容詞(主格)	14
§020	形容詞の用法	16
§021	疑問詞 какой?	16
第5課	動詞の第1変化と名詞の前置格(単数)	
§022	動詞の不定形	18
§023	動詞の現在形(第1変化)	18
§024	名詞の前置格(単数)	19
§025	前置格をとる前置詞	19

§ 026	人称代名詞および кто, что の前置格	20	§ 050	与格をとる前置詞	36
§ 027	特殊な変化をする動詞 (1) жить, писать 《コラム》月の名称	21	§ 051	特殊な変化をする動詞 (3) рисовать	36
		21	§ 052	数詞 (5) 100, 200, 300,...1000	37
第 6 課 動詞の第 2 変化と名詞の対格 (単数)			第 11 課 名詞の造格 (単数) ・ -ся 動詞		
§ 028	動詞の現在形 (第 2 変化)	22	§ 053	名詞の造格 (単数)	38
§ 029	名詞の対格 (単数)	23	§ 054	人称代名詞および кто, что の造格	39
§ 030	人称代名詞および кто, что の対格	24	§ 055	造格をとる前置詞	39
§ 031	対格をとる前置詞	24	§ 056	-ся 動詞	40
§ 032	数詞 (2) 11 ~ 20 《コラム》曜日の名称 《コラム》辞書の見方	25	§ 057	再帰人称代名詞 себя	41
		25	第 12 課 定動詞と不定動詞 (2)		
第 7 課 動詞の過去と未来			§ 058	定動詞と不定動詞 (2)	42
§ 033	動詞の過去	26	第 13 課 形容詞短語尾形と副詞・無人称文		
§ 034	動詞 быть の用法	27	§ 059	形容詞短語尾形	44
§ 035	動詞の未来形	28	§ 060	形容詞短語尾の用法	44
§ 036	数詞 (3) 20 ~ 30	28	§ 061	副詞とその用法	46
第 8 課 定動詞と不定動詞 (1)			§ 062	無人称文 《コラム》動詞 дать, есть	46
§ 037	定動詞と不定動詞 (1) идти, ехать など	29			47
§ 038	前置詞 в, на と対格・前置格	30	第 14 課 完了体動詞と不完了体動詞・不定人称文		
§ 039	特殊な変化をする動詞 (2) мочь, хотеть	30	§ 063	完了体動詞と不完了体動詞	48
§ 040	簡単な複文	31	§ 064	体と接頭辞	50
§ 041	数詞 (4) 20, 30, 40...100	31	§ 065	不定人称文	51
第 9 課 名詞の生格 (単数)			第 15 課 動詞の命令形・形容詞の対格 (単数)		
§ 042	名詞の生格 (単数)	32	§ 066	動詞の 2 人称命令形	52
§ 043	人称代名詞および кто, что の生格	32	§ 067	動詞の 1 人称と 3 人称命令形	53
§ 044	存在や所有の表現	33	§ 068	形容詞の対格 (単数)	54
§ 045	存在や所有の否定表現	33	§ 069	所有代名詞の対格 (単数)	55
§ 046	男性名詞活動体の対格 (単数)	34	§ 070	指示代名詞の対格 (単数)	56
§ 047	生格をとる前置詞	34	第 16 課 形容詞の比較級 (1) ・形容詞の前置格 (単数)		
第 10 課 名詞の与格 (単数)			§ 071	形容詞の比較級 (1)	57
§ 048	名詞の与格 (単数)	35	§ 072	形容詞の前置格 (単数)	57
§ 049	人称代名詞および кто, что の与格	36	§ 073	所有代名詞の前置格 (単数)	58
			§ 074	指示代名詞の前置格 (単数)	59

第17課 形容詞の比較級(2)・形容詞の生格(単数)			第23課 順序数詞・形容詞の複数形(2)	
§ 075 形容詞の比較級(2)	60		§ 101 順序数詞	84
§ 076 副詞・無人称述語の比較級	61		§ 102 数詞を使った表現(2)	85
§ 077 形容詞の生格(単数)	62		§ 103 形容詞の与格・造格・前置格(複数)	86
§ 078 所有代名詞の生格(単数)	63		§ 104 所有代名詞の与格・造格・前置格(複数)	87
§ 079 指示代名詞の生格(単数)	63		§ 105 指示代名詞の与格・造格・前置格(複数)	87
第18課 形容詞の最上級(1)・形容詞の与格(単数)			第24課 不定副詞・不定代名詞・否定副詞・否定代名詞	
§ 080 形容詞の最上級(1)	65		§ 106 不定副詞	88
§ 081 形容詞の与格(単数)	65		§ 107 不定代名詞	89
§ 082 所有代名詞の与格(単数)	65		§ 108 否定副詞	90
§ 083 指示代名詞の与格(単数)	67		§ 109 否定代名詞	91
第19課 形容詞の最上級(2)・形容詞の造格(単数)			第25課 関係代名詞・関係副詞	
§ 084 形容詞の最上級(2)	68		§ 110 関係代名詞 который	92
§ 085 副詞の最上級	68		§ 111 関係代名詞 кто と что	93
§ 086 形容詞の造格(単数)	68		§ 112 関係代名詞 какой	93
§ 087 所有代名詞の造格(単数)	69		§ 113 関係代名詞 чей	94
§ 088 指示代名詞の造格(単数)	70		§ 114 関係副詞	94
§ 089 再帰所有代名詞 СВОЙ	70		第26課 仮定法・普遍人称文・副動詞	
第20課 名詞の複数形(1)・数詞の用法			§ 115 仮定法	95
§ 090 名詞の主格・生格・対格(複数)	71		§ 116 普遍人称文	96
§ 091 複数生格の例外	72		§ 117 副動詞	96
§ 092 数詞と名詞の結合	73		第27課 形動詞・受け身の構文	
第21課 形容詞の複数形(1)・数量生格・数詞を使った表現(1)			§ 118 能動形動詞	99
§ 093 形容詞の主格・生格・対格(複数)	75		§ 119 被動形動詞	100
§ 094 所有代名詞の主格・生格・対格(複数)	75		§ 120 受け身の構文	102
§ 095 指示代名詞の主格・生格・対格(複数)	76			
§ 096 数量生格	76			
§ 097 数詞を使った表現(1)	77			
第22課 名詞の複数形(2)・定代名詞 весь, сам				
§ 098 名詞の与格・造格・前置格(複数)	79			
§ 099 数詞の変化	80			
§ 100 定代名詞 весь, сам	82			
《コラム》複数形で特殊な変化をする名詞	83			

第1課 (Урок первый)

文字と発音

§001 アルファベット

	活字体	筆記体	名称	発音
1	А а		ア	[a]
2	Б б		ベ	[b]
3	В в		ヴェ	[v]
4	Г г		ゲ	[g]
5	Д д		デ	[d]
6	Е е		イエ	[je]
7	Ё ё		ヨ	[jo]
8	Ж ж		ジェ	[]
9	З з		ゼ	[z]
10	И и		イ	[i]
11	Й й		イ・クラトカヤ	[j]
12	К к		カ	[k]
13	Л л		エル	[l]
14	М м		エム	[m]

	活字体	筆記体	名称	発音
15	Н н		エン	[n]
16	О о		オ	[o]
17	П п		ペ	[p]
18	Р р		エル	[r]
19	С с		エス	[s]
20	Т т		テ	[t]
21	У у		ウ	[u]
22	Ф ф		エフ	[f]
23	Х х		ハ	[x]
24	Ц ц		ツエ	[ts]
25	Ч ч		チェ	[tʃ]
26	Ш ш		シャ	[ʃ]
27	Щ щ		シシャ	[ʃʃ]
28	Ъ ъ		硬音記号	[-]
29	Ы ы		ウイ	[i]
30	Ь ь		軟音記号	[']
31	Э э		エ	[e]
32	Ю ю		ユ	[ju]
33	Я я		ヤ	[ja]

注) ロシア語アルファベットは、10個の母音字、21個の子音字、そして2個の記号、合わせて33個の文字からなる。

§ 002 母音

ロシア語には母音を表わす文字が10個ある。
母音は、硬母音と軟母音に分かれる。母音の前に短いイを添えるものを軟母音という。硬母音はア行に、軟母音はヤ行に例えられて説明されることがある。

[表1] 母音の硬軟対照表

硬母音	а	ы	у	э	о
軟母音	я	и	ю	е	ё

注1) ы: 舌をうしろに引き、舌先をやや上げて「イ」と発音する。

пить : пыль 飲む : ホコリ рис : рыба 米 : サカナ

注2) е: 英語のそれとは異なり、[je] と発音する。

эта : есть この : 食べる эхо : ехать エコー : 乗る

注3) у: 日本語の「ウ」とは異なり、唇を丸めて発音する。

улица 通り утро 朝

§ 003 子音

б	英語の[b]の音。	банк	銀行
в	英語の[v]の音。	виза	ビザ
г	英語の[g]の音。	газета	新聞
д	英語の[d]の音。	да	はい
ж	舌を後ろに引き、少し立ててジと発音する。	жена	妻
з	英語の[z]の音。	зонт	かさ
й	短いイ。	мой	私の
к	英語の[k]の音。	касса	レジ
л	舌の先を上歯の裏につけてルという。	лампа	電灯
м	英語の[m]の音。	магазин	商店
н	英語の[n]の音。	номер	番号
п	英語の[p]の音。	парк	公園
р	舌の先を震わせるラ行の音。	ручка	ペン
с	英語の[s]の音。	сахар	砂糖
т	英語の[t]の音。	такси	タクシー
ф	英語の[f]の音。	фамилия	名字
х	喉の奥で強くハ行をいう。	характер	性格
ц	ツに使う音。	центр	中心

ч	チに使う音。	чай	紅茶
ш	Жの方法でシャという。	шапка	帽子
щ	Шの軟らかい長音である。	щи	野菜類スープ

§ 004 軟音記号と硬音記号

ь は「軟音記号」と呼ばれる。常に子音とともに用いられ、「子音 + ь」の結合をとる。この記号がつくと、子音は「軟らかく」発音される。つまり、子音に短い「イ」の響きを加えて発音される。

мать 母親 здесь ここに

ъ は「硬音記号」と呼ばれ、常に子音と母音の間で用いられる。この記号はその子音と母音が分けて発音されることを示す。これを「分離符としての働き」と呼ぶ。

въехать 乗り入れる объект 対象物

軟音記号にも「分離符としての働き」がある。

семья 家族 статья 論文

軟音記号のついた子音を軟子音、軟音記号のつかない子音を硬子音と呼ぶ。

[表2の1] 子音字の硬軟対照表

硬	б	п	в	ф	д	т	з	с	л	м	н	р
軟	бь	пь	вь	фь	дь	ть	зь	сь	ль	мь	нь	рь

ж, ш, ц は常に硬子音である。これらの後に軟音記号や軟母音がついても発音は「軟らかく」ならない。

ешь 食べなさい женщина 女性 цирк サーカス

ч, щ は常に軟子音である。軟音記号や軟母音の有無にかかわらず、発音は常に「軟らかい」。

дочь 娘 чай 紅茶 вещь 品もの

[表2の2]

硬	ж	ш	ц		
軟				ч	щ

§ 005 単語とアクセント

(1) アクセント

単語は原則としてアクセントを持つ。
 アクセントは必ず母音の上にある。
 アクセントのある母音は強く、はっきり、長く発音される。
 アクセントは記号(´)で表示する。母音が1つの単語は原則として、表示を省略する。
 è は常にアクセントを持つ。

(2) つづりと発音

つづってある通りに読むといわれるロシア語ではあるが、次のような場合はつづりの通りに読まない。

アクセントのない o は [a] として発音される。
 окнó [акнó] 窓 мо́локó [малакó] ミルク

アクセントの前の e, я は「иに近いe」として発音される。これを [и^е] と表記する。
 река́ [ри^ека́] 川 язы́к [и^езы́к] 舌、言語

語末の有声子音は、対応の無声子音として発音される。これを「有声子音の無声化」と呼ぶ。
 хлеб [хлеп] パン друг [друк] 友人
 обе́д [абéт] 食事 газ [гас] ガス

[表3] 子音の有声・無声対照表

有	б	в	г	д	ж	з	й	м	н	л	р				
無	п	ф	к	т	ш	с						х	ц	ч	щ

これらの有声子音は、無声子音の前でも、同じように対応の無声子音として発音される。
 вче́ра [фч-] 昨日 кнѳ́жка [-шк-] 小冊子

逆に、無声子音は в を除く有声子音の前で、対応の有声子音として発音される。これを「無声子音の有声化」と呼ぶ。

ста́ча [зА-] おつり вокза́л [-Гз-] ターミナル駅
 та́кже [-Гж-] ~もまた сде́лать [зА-] やり通す

ロシア語で単語をつづる時に、伝統的なつづり方が適用される場合がある。これを「正書法の規則」と呼んでいる。

[表4] 正書法の規則

	ы	и	
г, к, х, ж, ч, ш, щ の後には	ю	у	を綴る。
	я	а	

第2課 (Урок второй)

簡単な文

§006 簡単な平叙文

Это Саша. これはサーシャです。
 Это газéта. これは新聞です。

注) «Это» は、「これは～です」にあたる。しかし通常「～です」の部分は省略される。[§034]

§007 疑問文と否定文

— Это Нина? これはニーナですか。
 — Да, это Нина. はい、それはニーナです。
 — Это книга? これは本ですか。
 — Нет, это не книга. いいえ、それは本ではありません。

疑問詞のない疑問文のイントネーションは、疑問の中心となっている単語のアクセント部分を上げる。

肯定の回答では Да (はい) を、また否定には Нет (いいえ) を使う。

否定文は、否定したい語の前に助詞 не を置く。

§008 疑問詞を用いた疑問文

— Кто это? これは誰ですか。
 — Это Кóля. それはコーリヤです。
 — Что это? これは何ですか。
 — Это словáрь. それは辞書です。
 — Где газéта? 新聞はどこですか。
 — Газéта там. 新聞はあそこです。

кто は人間と動物を、что は事物を、где は場所をたずねる時に使う。疑問詞は通常、文頭に置く。

§009 人称代名詞

人称代名詞は、人称と数の2要素からなる。

[表5]	単数	複数
1人称	я 私	мы 私たち
2人称	ты 君	вы 君たち
3人称	он 彼	о́ни 彼ら
	о́на 彼女	они́ 彼女ら
	оно́ それ	о́ни 彼ら

ты は親子や夫婦などの家族同士で、親友や恋人などの間柄で使う。またおとなが子どもに対して用いる。

вы は、ты の複数形の他に、敬称として単数の「あなた」や複数の「あなた方」という意味をもつ。

Ма́ша, Ё́ра! Где вы? マーシャ、イーラ。お前たちはどこだい。
 Де́вушка, где вы? お嬢さん、あなたはどこですか。
 Де́вушки, где вы? お嬢さん方、あなたたちはどこですか。

§010 接続詞 и, а, но

接続詞 и 「～と、そして」にあたる。

Это вода́ и сок. これは水とジュースです。

接続詞 а 「その一方」にあたる。

Это вода́, а это сок. これは水です。一方、これはジュースです。

接続詞 но [но] 「しかし」にあたる。

Это вода́. Но нельзя́ пить. これは水だ。だが飲んではいけない。

§ 011 数詞 (1)

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1. один | 5. пять | 9. девять |
| 2. два | 6. шесть | 10. десять |
| 3. три | 7. семь | |
| 4. четыре | 8. восемь | |

注) ゼロは、ноль という。

第3課 (Урок третий)

名詞の性・数・格

§ 012 名詞の性

ロシア語の名詞には文法のうえで男性、女性、中性の区別がある。
名詞の性は、単語末の文字で識別することができる。

[表6]	語末の文字		
男性名詞	硬子音字	-й	-ь
女性名詞	-а	-я	-ь
中性名詞	-о	-е	-мя

注1) 硬子音字とは、ここでは軟音記号 [-ь] のつかない子音である。

注2) -ь に終わる名詞には男性・女性の2種がある。

男性名詞	стол	机	музей	博物館	словарь	辞書
女性名詞	книга	本	песня	歌	площадь	広場
中性名詞	место	座席	здание	建物	время	時間

-а, -я で終る名詞でも、男性を意味するものは男性名詞である。

папа	パパ	дядя	おじ	Пётя	ペーチャ
------	----	------	----	------	------

§ 013 名詞の数

ロシア語の名詞には、単数と複数の区別がある。

[表6の1]	単数形	複数形	
男性名詞	-硬子音字	+ы	стол 机 столы
	-й	-и	музей 博物館 музеи
	-ь	-и	словарь 辞書 словари

[表 6 の 2]	単数形	複数形			
女性名詞	-а	-ы	газэ́та	新聞	газэ́ты
	-я	-и	пéсня	歌	пéсни
	-ь	-и	тетра́дь	ノート	тетра́ди

[表 6 の 3]	単数形	複数形			
中性名詞	-о	-а	письмо́	手紙	пи́сьма
	-е	-я	мо́ре	海	моря́
	-мя	-мена	и́мя	名前	имена́

子音 г, к, х, ж, ч, ш, щ の後には [表 4] の正書法により -ы を綴らずに -и を書く。

ма́льчик ма́льчики 男の子 кни́га кни́ги 書籍

常に複数形で用いられる名詞がある。

часы́ 時計 де́ньги お金 очкíи メガネ
 де́ти 子ども達 роди́тели 両親 лю́ди 人々

男性名詞の中で複数語尾が -а (-я) に終わる例外がある。

до́м дома́ 家 го́род городá 都市
 гла́з глаза́ 目 край края́ 辺境

単数形で語末にアクセントがある名詞のうち、複数形でアクセントの移動する名詞がある。

§ 014 名詞と 3 人称代名詞の関係

он は人間の男性ばかりでなくすべての男性名詞単数形に使うことができる。

同様に, она́ はすべての女性名詞単数形のかわりに, また онó はすべての中性名詞単数形のかわりに, они́ はすべての名詞の複数形のかわりに使う。

— Где текст? テキストはどこですか。

— Вот он. ほら、これだよ。

— Где газэ́та? 新聞はどこですか。

— Вот она́. ほら、これだよ。

§ 015 名詞の格

次の 2 つの文を比べてみよう。

Газэ́та здесь.

新聞は、ここだ。

Я чита́ю газэ́ту.

私は、新聞を読む。

文の主語や補語などの役割についてロシア語では газета(新聞は), газету(新聞を)というように単語自体の語尾変化によって表わされる。この語尾変化のことを「格変化」と呼んでいる。

ロシア語の名詞類には 6 つの格があり、日本語の「てにをは」で例示すると次のようになる。ロシア語学習の変化表では、以下の順番で格変化が表記される。また単数変化の後に複数変化形が並ぶ。

1. 主格 (しゅかく) 「は」「が」(辞書の見出し形を兼ねる)
2. 生格 (せいかく) 「の」
3. 与格 (よかく) 「に」
4. 対格 (たいかく) 「を」
5. 造格 (ぞうかく) 「によって」
6. 前置格 (ぜんちかく) 固有の意味はなく、常に前置詞とともに用いられる。

第4課 (Урок четвёртый)

所有代名詞・指示代名詞・形容詞

§ 016 所有代名詞 (主格)

所有代名詞のうち、мой, твой, наш, ваш は結びつく名詞の性・数・格に応じて変化する。

[表7]		私の	君の	私たちの	あなたの
単数形	男性形	мой	твой	наш	ваш
	女性形	моя	твоя	наша	ваша
	中性形	моё	твоё	наше	ваше
複数形		мои	твои	наши	ваши

мой журнал 私の雑誌 моё письмо 私の手紙
 моя книга 私の本 мои часы 私の時計

3人称は、語形の変化がない。

[表8]

彼(それ)の	彼女(それ)の	それの	彼(それ)らの
его	её	его	их

注) его は[и'вó] と発音する。

его отец 彼の父親 его родители 彼の両親
 его мать 彼の母親

§ 017 疑問代名詞 (主格) чей?

疑問代名詞 чей? (誰の) は、結びつく名詞の性・数・格に応じて変化する。

[表9]		誰の	
単数形	男性形	чей	чей словарь? 誰の辞書
	女性形	чья	чья сумка? 誰のバッグ
	中性形	чьё	чьё место? 誰の座席
複数形		чьи	чьи часы? 誰の時計

§ 018 指示代名詞 (主格) этот, тот

指示代名詞 этот (この), тот (あの) は、関係する名詞の性・数・格に応じて変化する。

[表10]		この	あの		
単数形	男性形	этот	тот	этот дом	この家
	女性形	эта	та	эта почта	この郵便局
	中性形	это	то	это метро	この地下鉄
複数形		эти	те	эти магазины	これらの商店

§ 019 形容詞 (主格)

形容詞は、それが結びつく名詞の性・数・格に応じて変化する。「硬変化」と「軟変化」に大別される。

[表11]		硬変化		軟変化
		新しい	若い	青い
単数形	男性形	новый	молодой	синий
	女性形	новая	молодая	синяя
	中性形	новое	молодое	синее
複数形		новые	молодые	синие

- 注1) 複数形には、性の区別がない。
 注2) 単語前半の語形変化しない部分を語幹、語形変化する部分を語尾と呼ぶ。
 注3) アクセントが語尾にあるものは、男性形が -ой となる。

но́вый мир 新しい世界 но́вая маши́на 新しい車
 но́вое пальто́ 新しいコート но́вые часы́ 新しい時計

語幹が г, к, х で終る形容詞は硬変化である。正書法 [表4] により -ы のかわりに -и を書く。アクセントが語尾にある場合男性形が -ой となる。

[表12]		厳しい	ロシアの	静かな	悪い
単数形	男性形	стро́гий	ру́сский	ти́хий	плохо́й
	女性形	стро́гая	ру́сская	ти́хая	плоха́я
	中性形	стро́гое	ру́сское	ти́хое	плохо́е
複数形		стро́гие	ру́ские	ти́хие	плохи́е

ти́хий ве́чер 静かな夜 ти́хая у́лица 静かな通り
 ти́хое ме́сто 静かな場所 ти́хие зву́ки 静かな音

ж, ч, ш, щ で終わり、語幹にアクセントがあるのは軟変化である。正書法の規則 [表4] により -я の代わりに -а をつづる。

[表13]		新鮮な	熱い	良い	共通の
単数形	男性形	све́жий	горя́чий	хоро́ший	о́бщий
	女性形	све́жая	горя́чая	хоро́шая	о́бщая
	中性形	све́жее	горя́чее	хоро́шее	о́бщее
複数形		све́жие	горя́чие	хоро́шие	о́бщие

хоро́ший костю́м よい背広 хоро́шая руба́шка よいシャツ
 хоро́шее пальто́ よいコート хоро́шие очки́ よいメガネ

ж, ч, ш, щ で終わり、語尾にアクセントがあるものは、硬変化となる。正書法の規則 [表4] により -я の代わりに -а をつづる。

[表14]		大きい	他人の
単数形	男性形	большо́й	чужо́й
	女性形	больша́я	чужа́я
	中性形	большо́е	чужо́е
複数形		больши́е	чужи́е

большо́й парк 大きな公園 больша́я пло́щадь 大きな広場
 большо́е зда́ние 大きな建物 больши́е дома́ 大きな家

§ 020 形容詞の用法

形容詞には主として次の2つの用法がある。

名詞を修飾する。語尾は、名詞の性・数・格に一致する。
 Са́ша хоро́ший студе́нт. サーシャはりっぱな学生だ。
 Э́то но́вые часы́. これは新しい時計です。

文の述語となる。語尾は、主語の性と数に一致する。
 Резу́льтат пло́хой. 結果は悪い。
 Пого́да пло́хая. 天気が悪い。

ただし主語が вы の場合、次のようになる。

Вы ещѐ мо́лодая. あなたはまだお若いですよ。
 Вы ещѐ мо́лодые. 君たちはまだ若いよ。

§ 021 疑問詞 ка́кой?

ка́кой (どんな) は、名詞を特徴づける形容詞を問いたす時に使う。結びつく名詞の性・数・格に応じて変化する。変化は形容詞に準じ、主格形は、како́й? ка́кая? како́е? ка́кие? である。

- Какой это хлеб? これはどんなパンですか。
- Это чёрный хлеб. それは黒パンです。

- Какая это рыба? これはどんな魚ですか。
- Это морская рыба. それは海の魚です。

- Какое это вино? それはどんなワインですか。
- Это красное вино. それは赤ワインです。

- Какие это фрукты? それはどんなフルーツですか。
- Это южные фрукты. それは南国のフルーツです。

какойは形容詞とともに用いて、感嘆文を作ることができる。

Это очень вкусный чай. これはとてもおいしい紅茶だ。

Какой это вкусный чай! なんておいしい紅茶だろうか。

Какая хорошая погода! なんていい天気だろうか。

Какое красивое озеро! なんときれいな湖だろうか。

Какие добрые люди! なんと親切な人たちだろうか。

第5課 (Урок пятый)

動詞の第1変化と名詞の前置格(単数)

§ 022 動詞の不定形

不定形は語尾の形によって、次の3種類がある。

1. -ТЬ で終るもの читáть (読む) знáть (知っている)
2. -ТИ で終るもの идти́ (行く) нести́ (持ち運ぶ)
3. -ЧЬ で終るもの мочь (できる) печь (焼く)

不定形から語尾2文字を取り去ったものを、不定形語幹という。

動詞には完了体と不完了体がある。第14課まで不完了体のみ使う。[§ 063]

§ 023 動詞の現在形(第1変化)

動詞の現在形は、主語の人称と数に応じて変化する。

語尾変化のパターンによって第1変化と第2変化 [§ 028] に分けられる。

[表15]		読む	知っている		
		читáть	знáть		
単 数	Я	чита́ю	зна́ю	гуля́ть	散歩する
	ты	чита́ешь	зна́ешь	делáть	する
	он	чита́ет	зна́ет	ду́мать	考える
複 数	мы	чита́ем	зна́ем	понимáть	理解する
	вы	чита́ете	зна́ете	рабо́тать	働く
	они́	чита́ют	зна́ют	слу́шать	聞く

注1) 表中でゴシック字の部分が、人称語尾である。

注2) 第1変化の現在語幹は、ほとんどの動詞が不定形語幹に等しい。またこのタイプの動詞は、語末が -ать, -ять に終わるものが多い。

注3) 3人称単数は、現在形の場合 он, она́, оно́ が同じ語尾になる。

注4) кто は он と、また что は оно́ と同等に扱う。

Я чита́ю, а па́па отды́хает. ぼくは読書をし、パパは休息をとっている。
 Кто слу́шает? 誰が聞いているのですか。

§ 024 名詞の前置格 (単数)

前置格は単独で用いられることがなく、常に前置詞とともに用いられる。
 変化は次の通りである。

[表16の1]		硬子音字	-й	-ь
男性	主格	СТОЛ	музе́й	слова́рь
	前置格	столе́	музее́	слова́ре

[表16の2]		-а	-я	-ь
女性	主格	ко́мната	пе́сня	пло́щадь
	前置格	ко́мнате	пе́сне	пло́щади

[表16の3]		-о	-е	-мя
中性	主格	ме́сто	мо́ре	и́мя
	前置格	ме́сте	мо́ре	и́мени

§ 025 前置格をとる前置詞

ロシア語の前置詞は、特定の格と結びつく。以下の前置詞は、前置格をとる例である。

о + 前置格 = 「～について」

Он мно́го знаёт о рабо́те. 彼は仕事のことをたくさん知っている。

в + 前置格 = 「～の中で」

Что в столе́? 机の中に何がありますか。

на + 前置格 = 「～の上に」

Что на столе́? 机の上に何がありますか。

一般に、場所の表現には前置詞 в を用いることが多い。

институ́т — в институ́те 大学で
 шко́ла — в шко́ле 学校で
 Москва́ — в Москва́е モスクワで

しかし場所を表現する場合、前置詞 на を用いる名詞がある。

заво́д — на заво́де 工場で
 рабо́та — на рабо́те 仕事場で
 ста́нция — на ста́нции 駅で

次のタイプの名詞の前置格は、-ииとなる。

-ийで終わる男性名詞。санато́рий — в санато́рии (サナトリウム)

-ияで終わる女性名詞。Росси́я — в Росси́и (ロシア)

-иеで終わる中性名詞。зда́ние — в зда́нии (建物)

前置詞が в, на の時、語尾にアクセントをとめない、-у́, -ю́ に終る男性名詞がある。

са́д — в са́ду 庭で бе́рег — на бере́гу 岸辺で
 ле́с — в ле́су 森で край — на краю́ 辺境で

§ 026 人称代名詞および кто, что の前置格

[表17の1] 人称代名詞の前置格

	単 数					複 数		
主 格	я	ты	он	о́на	оно́	мы	вы	они́
前置格	мне	тебе́	не́м	ней	не́м	нас	вас	них

注) мне の場合 обо мне, во мне とつづる。

[表17の2] кто, что の前置格

主 格	кто	что
前置格	ком	че́м

О ком вы ду́маете? あなたは誰のことを考えているのですか。

Я ду́маю о ней. わたしは彼女のことを考えています。

жить (住む)、писа́ть (書く) の現在形は次のように変化する。

[表18]		住む	書く
		жить	писа́ть
単数	я	живу́	пишу́±
	ты	живёшь	пи́шешь
	он	живёт	пи́шет
複数	мы	живём	пи́шем
	вы	живёте	пи́шете
	они́	живу́т	пи́шут

Где вы живёте? あなたはどこに住んでいるのですか。
 О чём вы пи́шете? あなたは何について書くのですか。

《月の名称》

1月	январь	в январé
2月	февраль	в февралé
3月	март	в ма́рте
4月	апрель	в апрéле
5月	май	в маé
6月	июнь	в ию́не
7月	июль	в ию́ле
8月	август	в áвгусте
9月	сентябрь	в сентябрé
10月	октябрь	в октябрé
11月	ноябрь	в ноябрé
12月	декабрь	в декабрé

注1) 月の名称は全て男性名詞である。
 注2) 「何月に」の表現には「**в** + 前置格」で表わす。

動詞の第2変化と名詞の対格

§ 028 動詞の現在形 (第2変化)

говори́ть (話す) や смотре́ть (見る) などの動詞は次表のような変化をする。この型の変化を第2変化と呼ぶ。

[表19]		話す	見る		
		говори́ть	смотре́ть		
単数	я	говору́	смотре́ю	дари́ть	贈る
	ты	говори́шь	смотре́ишь	звони́ть	電話する
	он	говори́т	смотре́ит	вери́ть	信用する
複数	мы	говори́м	смотре́им	кури́ть	喫煙する
	вы	говори́те	смотре́ите	по́мнить	覚えている
	они	говора́т	смотре́ят	строи́ть	建てる

注1) 第2変化の現在語幹は、不定形から語末の3文字を取り去ることになる。第2変化の動詞は語末が -ить や -еть に終わるものが多い。
 注2) 語尾にアクセントがある動詞のうち、ты の変化形から語幹にアクセントを移動するものがある。

Мы говори́м по-ру́сски. 私たちはロシア語を話します。
 Де́ти смотре́ют телеви́зор. 子ども達はテレビを見ている。

現在語幹が г, к, х, ж, ч, ш, щ で終るものは、正書法の規則 [表4] により、-ю, -ят が -у, -ат となる。

лежа́ть: лежу́, лежи́шь, ... лежат́ 横たわっている
 слы́шать: слы́шу, слы́шишь, ... слы́шат 聞こえる

1人称単数で、変化が不規則形になるものがある。子音が他の子音に交替する

ものを歯音変化といい、また語幹子音に -л- を追加するものを唇音変化という。唇音変化は、現在語幹末の子音が б, п, в, ф, м のときに起こる。

видеть:	ви́жу, ви́дишь,... ви́дят	見える
сидеть:	си́жу, си́дишь,... си́дят	座っている
просить:	про́шу, про́сишь,... про́сят	頼む
спать:	спя́ю, спи́шь,... спя́т	眠っている
любить:	лю́блю, лю́бишь,... лю́бят	好む
готовить:	гото́влю, гото́вишь,... гото́вят	準備する

§ 029 名詞の対格 (単数)

対格は、「～を」の意味をもつ格である。対格は、他動詞の直接補語や対格をとる前置詞と結びつく。

変化は次表の通りである。

[表20の1]		硬子音字	-й	-ь
男性	主格	СТОЛ	музе́й	слова́рь
	対格	СТОЛ	музе́й	слова́рь

注) すべての男性名詞が対格 = 主格ではない。男性名詞には活動体 (人と動物を表す) と不活動体 (それ以外の名詞) があり、対格 = 主格は不活動体のみである。 [§ 046]

[表20の2]		-а	-я	-ь
女性	主格	ко́мната	пе́сня	пло́щадь
	対格	ко́мнату	пе́сню	пло́щадь

注) 対格でアクセントが前方に移動する女性名詞がある。

рука́	ру́ку	手	нога́	но́гу	足
голова́	го́лову	頭	гора́	го́ру	山

[表20の3]		-о	-е	-мя
中性	主格	ме́сто	мо́ре	и́мя
	対格	ме́сто	мо́ре	и́мя

Я чита́ю докуме́нт. 私は書類を読んでいる。
Татья́на пи́шет письмо́. タチアーナは手紙を書いている。

§ 030 人称代名詞および кто, что の対格

[表21の1] 人称代名詞の対格

	単数					複数		
主格	я	ты	он	она́	оно́	мы	вы	они́
対格	меня́	тебя́	его́	её	его́	нас	вас	их

[表21の2] кто, что の対格

主格	кто	что
対格	кого́	что

кого́は [каво́]と発音する。

注) 3人称の代名詞が前置詞と結びつくときは、語頭に н- をつけ加える。
たとえば егó в негó, её в неё, их в них となる。

Вы хоро́шо знаёте его́? あなたは彼をよく知っていますか。
Кого́ я ви́жу? Ли́за, это́ ты?! 誰かと思ったらリーザじゃないか。

§ 031 対格をとる前置詞

в + 対格 = 「～に」

Он включа́ет это́ в прое́кт. 彼はこれを計画に織り込む。

на + 対格 = 「～に」

Она́ поступа́ет на рабо́ту. 彼女は仕事に就こうとしている。

че́рез + 対格 = 「～を越えて」

Они́ стро́ят мост че́рез реку́. 彼らは川に橋を架けている。

§ 032 数詞 (2)

- | | |
|------------------|------------------|
| 11. одиннадцать | 16. шестнадцать |
| 12. двенадцать | 17. семнадцать |
| 13. тринадцать | 18. восемнадцать |
| 14. четырнадцать | 19. девятнадцать |
| 15. пятнадцать | 20. двадцать |

《曜日の名称》

月曜日	понедельник	в понедельник
火曜日	вторник	во вторник
水曜日	среда	в среду
木曜日	четверг	в четверг
金曜日	пятница	в пятницу
土曜日	суббота	в субботу
日曜日	воскресенье	в воскресенье

注1) 曜日を問うには Какóй день? を使う。

Какóй сего́дня день? 今日は何曜日ですか

注2) 「何曜日に」は、в + 対格で表わす。

《辞書の見方》

動詞 знать, говорить を辞書で引くと、前者に現在変化についての説明はない。これは знать が第1変化であることを示している。そして後者には -рю́, -ришь と記されている。これは現在形1人称と2人称を表示したもので、говори́ть が第2変化動詞であることを示している。

また ходи́ть を引くと、хожу́, ходишь とある。1人称単数が例外であり、2人称単数以下が規則通りに変化することを表している。

第7課 (Уро́к седьмо́й)

動詞の過去と未来

§ 033 動詞の過去

動詞の過去形は、主語の性、数に応じて変化する。人称による区別はない。過去形は、不定形語幹 [§ 022] をもとにする。

[表22]		する	書く	話す	住む
		де́лать	писа́ть	говори́ть	жи́ть
単 数	男性	де́лал	писа́л	говори́л	жи́л
	女性	де́лала	писа́ла	говори́ла	жи́ла
	中性	де́лало	писа́ло	говори́ло	жи́ло
複 数		де́лали	писа́ли	говори́ли	жи́ли

Что вы де́лали вчера́? きのうあなたは何をしましたか。
 Ра́ньше те́тя жи́ла в Москве́. 以前叔母はモスクワに住んでいた。

注1) 主語が я, ты のとき、語尾に男女の区別が生じる。

— Пе́тя, что ты де́лал вчера́? ベーチャ、君はきのう何をしたの。

— Я слу́шал му́зыку. ぼくは音楽を聞いていたよ。

— А́ня, что ты де́лала? Аーニャ、きのう何をしたの。

— Я слу́шала му́зыку. わたしは音楽を聞いていました。

注2) 主語 вы は、たとえ一人であっても複数形で受ける。

Что вы де́лали сего́дня? あなたは今日何をしていましたか。

注3) кто は он と、что は онó と同じに扱う。

Кто э́то говори́л? 誰がそのことを言っていたの。

Что там лежа́ло? そこに何があったのですか。

§ 034 動詞 **БЫТЬ** の用法

БЫТЬ には、「～が在る」と「～である」の意味がある。

現在形は主語の人称と数に係わりなく **есть** である。

Здесь **есть** милиция. ここには警察がある。

Закон **есть** закон. 法律は法律だ。

есть は存在や定義を強調する場合に使われる。それ以外では通常、省略される。

Здесь **есть** метро. ここには地下鉄がある。

Метро **именно** здесь. 地下鉄はまさにここだ。

БЫТЬ の過去形と未来形は、次の通りである。

[表23の1]		肯定	否定
単 数	男性	БЫЛ	не БЫЛ
	女性	БЫЛА	не БЫЛА
	中性	БЫЛО	не БЫЛО
複 数		БЫЛИ	не БЫЛИ

[表23の2]		
単 数	я	бУДУ
	ты	бУДЕШЬ
	он	бУДЕТ
複 数	мы	бУДЕМ
	вы	бУДЕТЕ
	они	бУДУТ

Он **БЫЛ** дома. 彼は家にいた。

Он **бУдет** дома. 彼は家にいるでしょう。

過去と未来形では2通りの翻訳が可能である。

Вчера **Таня** **БЫЛА** в институте.

昨日ターニャは大学にいた。

昨日ターニャは大学に行って来た。

Завтра **Таня** **бУдет** в институте.

明日ターニャは大学にいる予定です。

明日ターニャは大学に行って来るでしょう。

§ 035 動詞の未来形

動詞の未来は「**БЫТЬ** の未来形 + 動詞の不定形」で表現される。

[表24]

単 数	я	бУДУ	дЕлать
	ты	бУДЕШЬ	дЕлать
	он	бУДЕТ	дЕлать
複 数	мы	бУДЕМ	дЕлать
	вы	бУДЕТЕ	дЕлать
	они	бУДУТ	дЕлать

Что вы **бУдете** **дЕлать** **завтра**? 明日あなたは何を予定ですか。

Завтра я **бУДУ** **рабОтать**. 明日、私は仕事をするつもりです。

§ 036 数詞 (3)

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 20. двАдцать | 26. двАдцать шесть |
| 21. двАдцать один | 27. двАдцать семь |
| 22. двАдцать два | 28. двАдцать восемь |
| 23. двАдцать три | 29. двАдцать девять |
| 24. двАдцать четы́ре | 30. три́дцать |
| 25. двАдцать пять | 31. три́дцать один |

第8課 (Урок восьмой)

定動詞と不定動詞 (1)

§ 037 定動詞と不定動詞 (1) **идти, ходить, ехать, ездить**

運動を表わす動詞のいくつかは、定動詞と不定動詞のペアをなす。
定動詞は方向が定まった運動を表わす。不定動詞はその意味をもたない。
動詞**идти, ходить**は「歩く」、**ехать, ездить**は「乗る」の意味をもつ。
変化は次表の通りである。

[表25]		行く	通う	行く	通う
現在		идти	ходить	ехать	ездить
単 数	я	иду́	хожу́	еду́	езжу́
	ты	идёшь	ходишь	едешь	ездишь
	он	идёт	ходит	едет	ездит
複 数	мы	идём	ходим	едём	ездим
	вы	идёте	ходите	едете	ездите
	они	идут	ходят	едут	ездят

過去		идти	ходить	ехать	ездить
単 数	男性	шёл	ходил	ехал	ездил
	女性	шла	ходила	ехала	ездила
	中性	шло	ходило	ехало	ездило
複 数		шли	ходили	ехали	ездили

Он **идёт** туда. 彼はそちらに向かっている。

Он **ходит** сюда. 彼はここに通っている。

この他の定・不定動詞のペアについては後述する。 [§ 058]

§ 038 前置詞 **в, на** と対格・前置格

定・不定動詞では方向や目的地を「**в, на** + 対格(方向)」で表す。

Я **иду́** в магазин. 私は店に行くところです。

Я **хожу́** на работу. 私は仕事場に通っています。

これらの疑問は、疑問詞 **куда?** で表す。

Куда вы **идёте**? あなたはどこへ行くところですか。

注) 疑問詞 **где?** の場合、応答で「**в, на** + 前置格」が使われる。 [§ 034]

Где вы **были**? あなたはどこに居ましたか。

Я **был** на концерте. ぼくはコンサートにいました。

「**на** + 前置格(乗り物)」は、交通手段を表わす。従って **ехать, ездить** と組み合わせて使われる。

На чём вы **едете** туда? あなたはそこへ何に乗って行くのですか。

Мы **ездим** на машине. 私たちはクルマで通っています。

§ 039 特殊な変化をする動詞 (2) **мочь, хотеть**

[表26]			できる	欲する
			мочь	хотеть
現 在	単 数	я	могу́±	хочу́
		ты	можёшь	хочёшь
		он	может	хочет
複 数	複 数	мы	можем	хотим
		вы	можете	хотите
		они́	могут	хотят
過 去	単 数	男性	мог	хотёл
		女性	могла́±	хотела́
		中性	могло́	хотело́
	複 数		могли́	хотели́

хотéть はその後に名詞の対格か動詞の不定形を、また мочь は動詞の不定形をとることができる。

Я хочú соба́ку. 私は犬が欲しい。
 Я хочú жить в Москвѐ. 私はモスクワに住みたい。
 Вы мо́жете éхать на метрó. あなたは地下鉄で行けますよ。

§ 040 簡単な複文

「主語 + 述語」が2つ以上ある文を複文という。
 「～と言う・思う」などの後に、接続詞 что によって発言や思考の内容を導くことができる。

Мы дúмаем, что́ это ва́жное де́ло.
 私は、それは大切なことだと思います。
 Мы зна́ем, что́ вы бы́ли в больни́це.
 私たちは、あなたが病院にいたことを知っている。
 Вы говорíли, что́ она́ любíт читáть?
 あなたは、彼女が読書好きだと言いましたね。

§ 041 数詞 (4)

- 20. двáдцать
- 30. три́дцать
- 40. со́рок
- 50. пятьдеся́т
- 60. шестьдеся́т
- 70. се́мьдесят
- 80. во́семьдесят
- 90. девяно́сто
- 100. сто

第9課 (Уро́к девя́тый)

名詞の生格 (単数)

§ 042 名詞の生格 (単数)

生格は、所有や所属を表す「～の」の意味をもち、直前の名詞を修飾する。また生格をとる動詞や前置詞と結びつく。
 変化は次表の通りである。

[表27の1]		硬子音字	-й	-ь
男性	主格	сто́л	музе́й	слова́рь
	生格	стола́	музе́я	слова́ря

[表27の2]		-а	-я	-ь
女性	主格	ко́мната	пе́сня	пло́щадь
	生格	ко́мнаты	пе́сни	пло́щади

[表27の3]		-о	-е	-мя
中性	主格	ме́сто	мо́ре	и́мя
	生格	ме́ста	мо́ря	и́мени

Здесь есть но́мер её телефо́на. ここに彼女の電話番号がある。
 Кремль — центр Москвы́. クレムリンはモスクワの中心だ。

§ 043 人称代名詞および кто, что の生格

[表28の1] 人称代名詞の生格

	単数					複数		
主格	я	ты	он	она́	оно́	мы	вы	они́
生格	меня́	тебя́	его́	её	его́	нас	вас	их

[表28の2] кто, что の生格

主 格	кто	что
生 格	кого́	чего́

чего́ は [чи°во́] と読む。

注1) 3人称の代名詞が前置詞と結びつくときは、語頭に н- をつけ加える。

たとえば егó в негó, её в неё, их в них となる。

注2) 人称代名詞の生格には所有の意味はない。

§ 044 存在や所有の表現

「在る」「居る」は、動詞 есть で表わす。

Время есть. 時間はある。

「AにはBが在る」「AはBを持っている」は、「у + A (生格) + есть + B (主格)」で表わす。

У мамы есть машина. ママには車がある。

У меня есть словарь. 私は辞書を持っている。

注) 存在ではなく、内容やように注目するときは есть が使われない。

У мамы новая машина! ママのはピカピカのクルマだ。

この表現の過去と未来は、быть を主格の名詞の性・数にあわせて用いる。

У него был брат. 彼には弟がいた。

У неё была хорошая ручка. 彼女はいいペンを持っていた。

У меня будет гость. 私のところに来客があります。

§ 045 存在や所有の否定表現

「ない」「持っていない」は、нет で表わす。

「ない」もの、「持っていない」ものは、主格ではなく、生格で表わす。これを「否定生格」と呼ぶ。

— Здесь есть Анна? ここにアンナはいますか。

— Нет, Анны здесь нет. いいえ、アンナはここにいません。

— У вас есть билет? あなたは切符をもっていますか。

— Нет, у меня нет билета. いいえ、私に切符はありません。

нет の過去は не было、未来は не будет を使う。

Сегодня нет концерта. 今日はコンサートがない。

Вчера не было концерта. 昨日はコンサートがなかった。

Завтра не будет концерта. 明日はコンサートがないだろう。

§ 046 男性名詞活動体の対格 (単数)

男性名詞には活動体名詞と不活動体名詞の区別がある。活動体名詞とは、人間や動物を意味する名詞をいう。そして不活動体名詞は、事物をさす。男性名詞の不活動体対格は、主格と同形である。[§ 029]

Я видел фильм. 私は映画を見た。

Вы читали роман? あなたは小説を読みましたか。

男性名詞の活動体対格は、生格と同形である。

Я видел Антона. 私はアントンを見かけた。

Вы читали Чехова? あなたはチェーホフを読んだことがありますか。

§ 047 生格をとる前置詞

у	~のそばに	без	~なしで
	~のもとに	для	~のために
из	~から	до	~まで
от	~から	около	~の周囲に
с	~から		

Он сидит у окна.

彼は窓のそばに座っている。

У него семья.

彼には家族がある。

Я не могу жить без театра. 私は劇場なしには生きられない。

Сегодня нет времени для отдыха. 今日は休息の時間がない。

Он звонит из магазина. 彼は店から電話をかけている。

Отсюда до работы один километр. ここから職場まで1キロだ。

Около гостиницы есть театр. ホテルの辺りに劇場がある。

С утра до вечера они работают. 朝から晩まで彼らは働いている。

От кого письмо? 誰からの手紙だい。

第10課 (Уро́к де́сятый)

名詞の与格 (単数)

§ 048 名詞の与格 (単数)

与格は「～に」の意味をもつ格で、他動詞の間接補語になる。また与格をとる動詞や前置詞と結びつく。

[表29の1]		硬子音字	-й	-ь
男性	主格	СТОЛ	музе́й	слова́рь
	与格	стола́	музе́ю	слова́рю

[表29の2]		-а	-я	-ь
女性	主格	ко́мната	пе́сня	пло́щадь
	与格	ко́мнате	пе́сне	пло́щади

注) 語末が -ия で終わる名詞では、与格を -ии とつづる。

Росси́я Росси́и ロシア ста́нция ста́нции 駅

[表29の3]		-о	-е	-мя
中性	主格	ме́сто	мо́ре	и́мя
	与格	ме́сту	мо́рю	и́мени

Отец покупа́ет сы́ну журна́л. 父は息子に雑誌を買っている。
Он показыва́ет Ни́не комна́ту. 彼はニーナに部屋を見せている。
Де́ти помога́ли ма́ме. 子ども達はママの手伝いをしていた。

§ 049 人称代名詞および кто, что の与格

[表30の1] 人称代名詞の与格

	単数					複数		
主格	я	ты	он	о́на	оно́	мы	вы	они́
与格	мне	тебе́	ему́	ей	ему́	нам	вам	им

[表30の2] кто, что の与格

主格	кто	что
与格	кому́	чему́

注1) 3人称の代名詞が前置詞と結合するときは、語頭に н- を加える。
たとえば ему́ к нему́, ей к ней, им к ним となる。
注2) мне の場合 ко мне と書く。

Кому́ вы пишете? あなたは誰に手紙を書いているのですか。
Что он вам пи́шет? 彼はあなたに何と書いているのですか。
О́на показыва́ет ему́ кварта́иру. 彼女は彼に住まいを見せている。

§ 050 与格をとる前置詞

方向や関係などの意味を表わす前置詞 к は、与格をとる。

О́ля идёт к вы́ходу. オーリヤが出口の方に歩いている。
О́ля идёт к подро́уге. オーリヤは友だちのところに行く。
У неё любо́вь к иску́ству. 彼女には芸術に対する愛着がある。

範囲や内容などを表わす前置詞 по は、与格をとる。

Авто́бус е́дет по у́лице. バスは通りを走っている。
Они́ гуля́ли по Москве́. 彼らはモスクワを散歩した。
Он чемпио́н ми́ра по те́ннису. 彼はテニスの世界チャンピオンだ。

§ 051 特殊な変化をする動詞 (3)

第1変化型の動詞の中には語尾に -овать, -евать をもつ動詞がある。

現在変化では、語幹 -ова- -у-, -ева- -ю- に変える。

[表31の1] 現在形	
描く	рисова́ть
я	рису́ю
ты	рису́ешь
он	рису́ет
мы	рису́ем
вы	рису́ете
они́	рису́ют

[表31の2] 過去形		
		рисова́ть
単 数	男性	рисова́л
	女性	рисова́ла
	中性	рисова́ло
複 数		рисова́ли

чу́вствовать: чу́вствую, чу́вствуешь, ... 感じる
 сове́товать: сове́тую, сове́туешь, ... アドバイスする
 боева́ть: бою́ю, бою́ешь, ... 戦う
 танцева́ть: танцую́, танцую́ешь, ... 踊る
 ночева́ть: ночую́ю, ночую́ешь, ... 泊まる

§ 052 数詞 (5)

- 100. сто
- 200. двести
- 300. триста
- 400. четы́реста
- 500. пятьсо́т
- 600. шестьсо́т
- 700. семьсо́т
- 800. восемьсо́т
- 900. девятьсо́т
- 1000. ты́сяча

第11課 (Уро́к оди́ннадцатый)

名詞の造格(単数)・-ся動詞

§ 053 名詞の造格(単数)

造格は、道具や手段、身分や職業を表わす格である。その他に、造格をとる動詞や前置詞の補語と結びつく。

変化は次表の通りである。

[表32の1]		硬子音字	-й	-ь
男 性	主 格	СТОЛ	музе́й	слова́рь
	造 格	столом	музеем	словаре́м

注) ц, ж, ч, ш, щ で終る名詞の造格は、アクセントが語幹にある場合、
 -ом ではなく、-ем となる。例 муж, му́жа, ... му́жем

[表32の2]		-а	-я	-ь
女 性	主 格	ко́мната	пе́сня	пло́щадь
	造 格	ко́мнатой	пе́сней	пло́щадью

注) -я で終る名詞の造格は、語尾にアクセントがある時は、-ей ではなく
 -ёй となる。例 семья́, семье́, ... семье́й

[表32の3]		-о	-е	-мя
中 性	主 格	ме́сто	мо́ре	и́мя
	造 格	ме́стом	мо́рем	и́менем

Та́ня пи́шет ру́чкой. ターニャはペンで書いている。
 Оте́ц рабо́тает инже́нером. 父は技師として働いている。

動詞 бы́ть の不定形、過去形、未来形の後にくる名詞は造格をとる。

Я хочу́ бы́ть врачо́м. 私は医者になりたい。

Анто́н был инженеро́м. アントンは技師だった。
 Анто́н бу́дет инженеро́м. アントンは技師になる。
 注) 現在形では主格が使われる。
 Анто́н — инженер. アントンは技師である。

Кни́га стои́т ме́жду ящи́ком и сло́варём.
 本は箱と辞書の間にある。
 Де́ти игра́ют пе́ред до́мом.
 子どもは家の前で遊んでいる。
 На́д на́ми голу́бое не́бо.
 私たちの頭上には青い空がある。
 Пи́сьмо ле́жит под сто́лом.
 手紙はテーブルの下にある。

§ 054 人称代名詞および кто, что の造格

[表33の1] 人称代名詞の造格

	単 数					複 数		
主 格	я	ты	он	о́на	оно́	мы	вы	они́
造 格	мно́й	тобо́й	им	е́й	им	на́ми	ва́ми	и́ми

[表33の2] кто, что の造格

主 格	кто	что
造 格	кем	чем

注1) 3人称の代名詞が前置詞と結合するときは、語頭に н- を加える。
 たとえば им с ним, ей с ней, им с ними となる。
 注2) мно́й の場合 со мно́й と書く。

Кем он бу́дет? 彼は何になるのだろうか。
 Чем он е́дет? 彼は何で行くのですか。

§ 055 造格をとる前置詞

с + 造格 = 「～とともに」
 Я иду́ вме́сте с тобо́й. ぼくは君と一緒にいく。
 На сто́ле хле́б с ма́слом. 食卓にはバターを塗ったパンがある。
 за + 造格 = 「～の後ろに」
 За реко́й бы́ло по́ле. 川の向こうは野原だった。
 До́чь сто́яла за двéрюю. 娘はドアの陰に立っていた。

これ以外に、造格をとる前置詞には次のようなものがある。

ме́жду = 「～の間に」 пе́ред = 「～の前方に」
 на́д = 「～の上方に」 под = 「～の下方に」

§ 056 -ся 動詞

ロシア語の動詞には、語末に -ся を持つものがある。ここではそれらを「-ся 動詞」(シャー動詞)と呼ぶ。
 -ся 動詞の変化を занима́ться (従事する)で例示する。

[表34の1] 現在形

	занима́ться
я	занима́ю <u>сь</u>
ты	занима́е <u>шь</u> ся
он	занима́е <u>т</u> ся
мы	занима́е <u>м</u> ся
вы	занима́е <u>те</u> сь
они́	занима́ю <u>т</u> ся

[表34の2] 過去形

	занима́ <u>т</u> ся	
単 数	男性	занима́ <u>л</u> ся
	女性	занима́ <u>ла</u> сь
	中性	занима́ <u>ло</u> сь
複 数	занима́ <u>ли</u> сь	

注) -ся は母音の後では -сь と書く。

-ся 動詞は主格と対格以外の格をとる。前置詞と強く結びつくものがある。

A. 生格をとる動詞の例として、бо́яться がある。

Я не́много бо́юсь во́ды. 私は水が少しこわい。

B. 与格をとる -ся 動詞の例として、учи́ться, нра́виться がある。

Я учу́сь му́зыке в Москве́. モスクワで私は音楽を学んでいる。

Мне нра́вится э́тот го́род. 私にはこの町が気に入っている。

C. 造格をとる動詞として заниматься, интересова́ться, являться, становиться などがある。

Он занима́ется спóртом. 彼はスポーツをやっている。
Она́ интересу́ется литерату́рой. 彼女は文学に興味がある。
Он мо́жет по́льзоваться телефо́ном. 彼は電話を使ってもよい。

D. 前置詞と強く結びつく動詞として заботиться, сомнева́ться がある。

Ма́ть заботи́лась о сы́не. 母親は息子のことを心配していた。
Мы не сомнева́емся в успе́хе рабо́ты.
私たちは仕事の成功を疑っていない。

注) 動詞不定形と結びつく場合もある。

Она́ у́чится игра́ть на гита́ре. 彼女はギターを弾くことを学ぶ。

§ 057 再帰人称代名詞 **себя́**

再帰人称代名詞 **себя́** は文の主語と同じものをさし、「自分自身」「それ自身」の意味をもつ。

この代名詞には主格がない。生格以下の変化は次表の通りである。[表35]

主 格	—
生 格	себя́
与 格	себе́
对 格	себя́
造 格	собо́й
前置格	себе́

Он отды́хает у себя́ до́ма. 彼は自分の家で休んでいる。

Он и́дёт к себе́ до́мой. 彼は自分の家に向かっている。

Он забыва́ет себя́. 彼は我を忘れている。

Она́ берёт зонт с собо́й. 彼女はかさを持参している。

Я не люблю́ рассказыва́ть о себе́.

私は自分のことを話すのが好きではない。